

環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



正しく知ってごリサイクルのこと

今更ですがリサイクルのこと、皆さんはどのように理解されていますか？枚方市がごみ減量の取り組みとして掲げている“4R”のことはご存じだと思いますが、その4番目の“R”がリサイクルです。出前授業で「4つのRの中で一番大事なのは何かと思いますか？」の質問に「リサイクル！」という答えが返ってくるのですが、皆さんならなんと答えますか？リサイクルは最後の手段。リサイクルにはケミカルリサイクル、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルの3種類ありますが、欧米諸国ではサーマルリサイクルはリサイクルとしてカウントしません。本来のリサイクルとは何か。ちゃんと理解しておくことが大事ですね。

カーボンリサイクル

耳にすることが増えた「カーボンリサイクル」ですが、これは工場などから排出されたCO²を資源として捉え、分離・回収して様々な製品や燃料に再利用する技術や取り組みのことです。写真の設備を見られませんでしたか。この設備はファンで大気を吸い込みCO²と化学反応する物質でCO²を吸着しCO²を回収するものです。回収されたCO²は会場内で様々な用途に使われています。



ひとこと



今年の夏は暑かった！！この欄を書いている今もまだ暑い！この異常な気候を多くの国民はどう思っているのでしょうか。

国際的な調査会社「イソプス」が、日本、アメリカ、インドなど32カ国で気候変動に対する意識調査をしたところ、「個人が今すぐ気候変動に対処する行動を取らなければ、次世代の期待を裏切ることになる」という設問に対し、「同意する」と答えた人の割合は日本は40%（32カ国平均：64%）と32カ国中、最も低かったそうです。

意識を変えるのは難しい？！

子

ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第87号

令和7年10月1日発行（年4回発行）

発行：（特非）ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号

サプリ村野 南館2階

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者：井上 浩一 編集責任者：丸井 晶子

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市を実現する ひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO.87

秋号

令和7年
(2025年)

環境ひらかた



環境ミニ講座「天の川を遊ぼう！」を開催

毎年人気のイベントですが、今年は開催が夏休み最終日ということもあり、16組43名というたくさんの親子にご参加いただきました。たくさんの魚たちがいる天の川。

これからも生きものが気持ちよくすめる天の川であるように、私たちができること、しなければいけないことは何か、参加してくれた子どもたちや保護者のみなさんにとって、環境について考えるきっかけになったのではないのでしょうか。



座学の後、天の川へ！

まずは河川レンジャー鎌田さんによる川遊びの安全講習を受け、天の川へ向かいました。最初に5分間のゴミ拾いをして、河川におけるゴミの実態を実際に体感してもらいました。

*****目次*****

環境ミニ講座「天の川を遊ぼう！」を開催	P1
インターン生の紹介	P2・3
部会報告	P4・5
お知らせコーナー	P6
環境トピック VOL.53	P7
環境ミニ知識	P8

この夏、インターン生が環境について学ぶ



武 沙織
立命館大学総合心理学部
総合心理学科 1 年

環境啓発時の「問う」「伝える」難しさを学ぶ

このインターンでは、ポイ捨て問題について取り組みました。より多くの人にこの問題について考えてもらうため、子ども向けのゴミに関するクイズイベントを企画しました。企画作成を通して、大切なことを学びました。それは、楽しいだけのイベントは簡単にできますが、「なぜそれをするのか」を伝えるのは非常に難しいということです。たとえば、クイズの問い方ひとつでも伝わり方が変わります。「ポイ捨てにおいて一番多いゴミは？」と問うより、「ポイ捨てにおいて一番問題になっているゴミは？」と問う方が、環境問題としての重要性がより伝わると気づきました。相手に行動を促すには、言葉の使い方がいかに重要かを学びました。



吉村 あおい
関西大学環境都市工学部
エネルギー環境・化学工学科 1 年

今起こっている問題にしっかり目を向け考える

私はこのインターンを通して沢山のことを学びました。その中で最も印象に残っているのが、自分の問題に対する理解の浅さです。私は環境問題に関わる学部所属しているため、ある程度知識はあると思っていました。しかし、いざ企画を練ろうとすると知らないことが多すぎて、いかに今までの自分の考えが浅かったかを実感しました。もっと今起こっている問題に目を向けて、どうしてその問題が起こっているのか、できることはないか、しっかり考えることが必要だと感じました。このインターンで学んだことを今後活かしていきたいです。



遠山 愛紗
関西外国語大学 外国語学部
国際日本学科 2 年

日頃から様々な問題に疑問を持ち調べ、知識をつける大切さ学ぶ

ひらかた環境ネットワーク会議での生活は、自分の知識の未熟さを痛感し、環境問題について熟考する実りの多い 10 日間となりました。活動を通じて、日頃から様々な問題に疑問を持ち、分からないことは調べて知識をつける大切さ、人との会話から気づきを得られるということ、そして決して課題解決を諦めない姿勢を学びました。今回得た経験を活かし、今後も学びを重ね、社会問題を考える際に知識を役立てていきたいです。そして、解決に貢献できる人材を目指し、努力していきたいです。

環境トピックス Vol.53

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。

今回は、「洋上風力発電の今」「核融合発電の実用化に本腰！？」の問題です。

◆洋上風力発電の今

第 7 次エネルギー基本計画では、再生可能エネルギーの割合を 2040 年目標で 40～50% とし、そのうちの風力発電の割合を 4～8% としている。

その風力発電で大きな期待が寄せられているのが「洋上風力発電」だ。周囲が海に囲まれている我が国にとっては有力な再生可能エネルギー源といえる。政府はその洋上風力発電の本格導入に向け、10 の海域の促進区域（事業化が期待され入札を行う候補海域）、9 の海域の有望区域（開発の可能性がある区域）、11 の海域の準備区域（開発に向けた調査や準備段階の海域）を指定し、拡大促進を目指し計画的に進めようと 2028 年に運転を始める計画で、2020 年、特定の海域を開発する事業者の公募を行った。

結果は三菱商事が秋田県と千葉県の間合 3 海域での事業を落札したが、その三菱商事がこのほど撤退を発表した。理由は建設費が当初想定の 2 倍を超え、採算が見込めなくなったということだ。これにより冒頭にあげた「風力発電の割合を 4～8%」という政府の計画に狂いが生じることとなった。

今回の件は事業者の公募ルールが不十分だったのではないかとされているが、洋上風力発電は民間事業者にとっては大規模投資であり、きちんと採算が取れるものでなくてはならない。そういった意味でも制度の見直しを行い、今回のような事業費の高騰にも対応できるような制度の再設計が求められる。脱炭素の実現へ向け急がなければならない。

◆核融合発電の実用化に本腰！？

“核融合発電” 耳にしたことがある方も多いと思う。核融合発電とは太陽の中で起きる核融合反応を人工的に起こす発電方法である。

“核融合発電” は長らく「永遠に 30 年後の技術」と言われてきたが、内閣府は 2030 年代を目指し、施設の立地選びやコスト、など実用化に向けた議論がはじめられたとのことだ。その背景には、燃料を海水から取り出せる可能性があることや、少量の燃料で莫大なエネルギーが得られること、さらに近年“超電導技術”の進展などがある。

核融合発電は原子力発電と異なり、核分裂による連鎖反応が起きず高レベル放射廃棄物も出ないといわれているが、はたしてどうなるのだろうか。議論の成り行きをしっかりと見ていたい。



お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネットワーク会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

◆◆講演会のご案内◆◆

ひらかた環境ネットワーク会議では「くらわんか塾」という環境講座を毎年実施しています。くらわんか塾は広く市民の皆さんと一緒に「環境について知り・考える場」なのですが、皆さんはご存じでしたか？

さてその「くらわんか塾」を今年度は下記のとおり開催します。ぜひふるってご参加ください。

開催日：2025年11月17日（月） 14：00～16：00

場 所：サブリ村野環境保全研修室

講 演：「気象予報士が見る気候変動と第7次エネルギー基本計画（仮）」

定 員：40名



講師：南 利幸 氏
気象予報士



バス！のってスタンプラリー開催

お待たせしました。会報誌夏号でのお約束通り「バス！のってスタンプラリー」開催が下記の通り決まりました。

実施日：11月29日（土）

集合場所：旧枚方市民会館大ホール前

受付開始時間：8：30 スタート：9：00



路線バスで枚方の「え～とこ」をめぐってみてはいかがでしょうか。お楽しみもいっぱいですよ♪♪ 詳細はチラシをご覧ください。

環境ミニ講座・環境ティールーム後期のご案内

ひらかた環境ネットワーク会議では2つの環境講座「環境ミニ講座」「環境ティールーム」をそれぞれ8回開催しています。9月25日に開催した環境ミニ講座で前期が終わりました。10月9日の環境ティールームを皮切りに後期がスタートします。より多くの方々に興味・関心を持ってもらえる内容となるよう企画しています。

各回の企画内容の詳細はチラシをご覧ください。

～子ども向け環境ごみ問題について考えるクイズイベントを企画～

今年の夏季インターンシップは8月7日に始まり9月11日に最終日を迎えました。今回は5名の学生が、それぞれ10日間、環境問題について真剣に学び、考えてくれました。そして最終日に1つのプログラムを完成させてくれました。



山本 竜也
摂南大学理工学部
電気電子工学科1年

自身の学び・考えを 周りに伝えることの難しさを実感

ひらかた環境ネットワーク会議でのインターンシップでは、環境問題の深刻さだけでなく、そこから広がる様々な課題について学ぶことができました。

また、どうすれば多くの人に関心を持ってもらえるのか、特に子供たちにわかりやすく伝える方法について考える機会にもなりました。身近な例や体験を交えて伝えることの大切さを実感し、自分自身の学びをどう周りに広げられるかを意識するようになりました。今回の経験を今後の行動につなげたいです。



吉岡 志真人
関西大学環境都市工学部
エネルギー環境・化学工学科

日常生活の中でも環境との繋がりを意識

今回は、とても貴重な経験をしました。これまで授業で環境のことは軽く触れてきましたが、真剣に考える機会はありませんでしたが、今回他のインターン生や会員の方々と一緒に環境問題を本気考えることができました。その中で痛感させられたのは自分の知識不足でした。さらにもう一つの気づきは、一見関係のないようなことでも、どこかで関係し繋がっているかもしれないということです。日常生活で環境のことを考える機会は少ないですが、関係ないようなことでも環境と繋がっているかもしれないと意識していきたいと思います。



マイゴーヤ 報告

今年も『MY ゴーヤで作ろう！緑のカーテン』を実施しました。4/15の土づくりから始まり、苗の植え付け、そして摘芯、ネット張り、日々の水やりでぐんぐんツルが伸び2階まで到達！しかし今年の酷暑で葉はあまり大きくならず窓から入る「直射日光を遮る」ということにはなりませんでした。それでも、嬉しいことにたくさんのゴーヤを収穫することができました。





部会活動紹介

ひらかた環境ネットワーク会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。



環境教育部会

この夏休み 親子環境講座で頑張りました

昨年の夏休み、今年と同じく6回の「夏休み親子環境講座」が実施されました。この講座は枚方市環境政策課が主催するもので、昨年度から当部会がお手伝いとして実践を担っています。ところが昨年度は部会委員メンバーの都合がつかず事務局にお任せとなってしまいましたが今年は頑張りました。企画はもちろん、準備も含め、他部会や他団体、事務局とも連携し協力を仰ぎながら実施することができました。参加者数は6回計190名を数えました。ちなみに講座内容は「穂谷の里山とクラフト体験」と「ソーラーミニカー工作」ということで、それぞれ里山保全の大切さや、エネルギーと温暖化などについて学んでもらいました。

一方出前授業はというと、昨年枚方市蹉跎西小学校のエコクラブがなくなったことでめっきり減ってしまったのですが、今年度は、会報誌夏号でもお伝えしたように、学校だけでなく団体などからの依頼も来ており、会員一同喜んでいるところです。この報告はまたの機会に。

穂谷の里山とクラフト体験の様子



間伐材の
マグタッチ

地球温暖化の話とソーラーミニカー作り体験の様子



テスト走行

修了証の授与



自然エネルギー部会

地球温暖化(沸騰化)をくい止める正しい情報を!!

本年4月から「あなたは地球が温暖化してきていると思いますか？」で始まるアンケートを、五六市会場などで行っています。ご覧いただく機会があったのではないのでしょうか？既に5回行い、188名の方々に協力いただいています。

さて、そのアンケートの項目の一つに「環境に係る正しい情報や知識を得ることを心がけていますか？」があります。この質問に94.7%の方々が「心がけている」と回答されています。しかしながら、詳しくお聞きすると、ご自身に流れてくる「環境情報」には耳を傾けているようですが、自身が積極的に入手するまでには至っていない実態が見えてきます。

現在ネット社会では、環境情報もご多分に漏れず「正しい情報」と「フェイク情報」が入り乱れて流れています。この情報は本当なのか？ウソなのか？それを見極めるには何をすればいいのか？何をしなければいけないのか？流れてきた情報をうのみにせず、情報を検証することがとても大切なことになってきているのです。

「検証するってどうやって？」その方法の一つが行政や公的機関、あるいは行政と協力関係のある団体などにアプローチし、科学的に裏付けされたエビデンスを基にした情報を入手することです。

正しい情報に裏付けされた省エネ、環境保全等を意識した生活を送ることで、遅々として進まない地球温暖化（沸騰化）対策や自然エネルギー導入を後押しする大きな原動力となるはずです。

環境にかかわる「疑問」や「知りたい」と思うことが少しでもあれば、「NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議」も是非活用して下さい。

皆さん、一緒に頑張りましょう!!!

